

2025年8月25日
成形課 中山

脳梗塞とは

今回は私の親が罹患し、現在後遺症に悩んでいる脳梗塞についてお伝えしようと思います。

脳梗塞とは

脳の血管が詰まったり、細くなったりして血流が途絶え、十分な酸素やエネルギーが供給されず脳細胞が壊死してしまう病気です。

脳梗塞の症状

脳梗塞が起こる部位によって、具体的な症状はさまざまです。

運動障害

半身が麻痺を起こす「片麻痺」をはじめ、手足や指の動きがままならなくなったり、呂律が回らなくなったり、物を飲み込むことができなくなったりするなど、さまざまな障害が現れます。

感覚障害

感覚障害とは、体の感覚に異常が見られるというものです。具体的には、手足のしびれや感覚の喪失(触覚がない・温度を感じない)などが症状として挙げられます。

構音障害＆失語症

言葉を使ったり、記憶したり、文字を解読したりする部位がダメージを受けることで起こる症状です。言葉を声にして発する能力が低下したり、文字を読んでも理解できなかったり、書けなかったりするということが挙げられます。

高次機能障害(認知障害)

記憶、学習、思考、情緒などをつかさどる部位に影響が出た際に起こる症状です。記憶障害(記憶能力が低下する)、注意障害(集中力が低下する)、社会的行動障害(すぐに興奮したり激昂して暴力をふるったりする)など、さまざまなタイプの障害が引き起こされます。

脳梗塞の原因

脳梗塞は脳への血流が妨げられることで発生します。

この血流障害は主に次の三つの原因によって引き起こされます。

高血圧: 血圧が長期にわたって高い状態が続くと、血管の内壁に損傷を与え、動脈硬化を起こします。

これにより、脳の細い血管が狭窄または閉塞し、脳梗塞を引き起こすリスクが高まります。

動脈硬化: 脂肪、コレステロール、カルシウムなどが血管壁に堆積し動脈硬化が進むと血栓（血のかたまり）ができやすくなります。

これにより血管が柔軟性を失い、狭窄することで血流が阻害され、脳梗塞が発生する原因となります。

心房細動: 血液を貯める「心房」が、異常により細かく震えてしまっている状態（不整脈）であり、心臓の中で血液の流れが滞り、血栓（血のかたまり）ができやすくなります。この血栓が脳に運ばれると脳の血管が詰まり脳梗塞を引き起します。

対処法

脳梗塞を疑ったら、できるだけ早期に治療を受けることが重要です。脳の血流が止まったために一度破壊された脳細胞は、元に戻ることはありません。このため、できるだけ早く治療を開始し、脳のダメージを抑えることが大事になります。脳梗塞は、治療開始までの時間が短いと、実施できる治療法の幅が広がります。

脳梗塞のサイン FAST を覚えておこう！

【FAST】（ファスト）は脳梗塞の症状に気づくための簡単なチェック項目と取るべき対応を示すものです。「FAST=速く」つまり、緊急を意味します。以下の症状に気づいたら、すぐに受診しましょう。

Face (フェイス)

笑顔になった時に左右同程度、口角があがるかどうかを確認します。片側の口角が下がったり、そこからよだれが出たりする症状が見られることがあります。

Arm (アーム)

手の平を上にして両腕を伸ばし床と水平になるまで挙げたまま、キープできるかどうかを確認します。片腕だけ、力が入らずだらんと下がってしまうと手のまひの前兆の可能性があります。

Speech (スピーチ)

いつも通りしゃべることができるかどうかを確認します。言葉がうまく出なかったり、ろれつが回っていない場合は言語障害の前兆の可能性があります。

Time (タイム)

Face、Arm、Speech の 3 つのうち、ひとつでも当てはまる症状があれば脳梗塞の疑いがあります。症状に気づいたら時間を確認してすぐに救急車を呼びましょう。発症時刻からどのくらい経過しているかで治



療法が異なります。

予防

脳梗塞を予防するためには、生活習慣の改善が重要です。具体的には、禁煙、適度な運動、バランスの取れた食事、十分な水分補給、ストレス管理などが挙げられます。また、高血圧や糖尿病などの生活習慣病を治療することも大切です。

脳ドックを受診し脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）や脳腫瘍などの脳の病気を早期に発見する事も有効です。

私の親は発症した場所が、脳の運動領域と言語領域で症状として半身マヒと失語症が出ました。特に失語症は聞く、話す、読む、書くといった言語機能に障害が出て会話もままなりません。

症状の程度が重いと普通の生活に戻る事が難しくなり、自宅に帰れず施設での生活を余儀なくされたり、意思の疎通が出来なくなり、これまで培ってきた尊厳が保てなくなったりと犠牲が多い病気です。

皆様も生活習慣に気を付けて、予防に努めつついざ症状が出た場合には可能なかぎり早く救急車を呼んで、病院を受診してください。